

スペインの楽士に

お前には見えるだろうか、風の流れるのが
運命の低音^{バス}の、果てしなく続く主題のような・・・

風は空高く吹き去って行き、しかも
私等の心の最も低きを流れ続ける、果てしなく

風を見よ、ヴァイオリンを奏する時には
そこに全てのリズムとメロディーの基礎^{ベース}がある
歓喜、悲歎、憂愁、そして運命が鳴り渡る
風は全てを知っている、耳を澄ませよ

風と共に踊り、風に響きを乗せてやれ
楚々たる風は憂愁の、巻き上がる風は歓喜の
荒涼な風は悲歎の、疾風は運命の手を取る

うつむいて目を閉じれば最も低きを
顔を上げ、目を開けば遙か高きを、風は流れる
風の流れるを見、風と共に踊れ、さあ・・・

(1982.4.16)